

富士山世界遺産センター（仮称）建築工事設計業務公募型プロポーザル
審査講評

平成 26 年 3 月

富士山世界遺産センター（仮称）建築設計業務
公募型プロポーザル審査委員会委員長 高階秀爾

富士山世界遺産センター（仮称）は、富士山の包括的な保存管理の拠点となるとともに、富士山の自然、歴史・文化に加え周辺観光等の情報提供を行うなど、訪れる多くの人々のニーズに対応する拠点となる施設として、静岡県において整備を進めている。

今回の建築工事設計業務公募型プロポーザルは、一級建築士事務所登録を有することを参加条件として、過去の実績を問わない形で門戸を広くするとともに、審査委員には、審査の過程で提案者名を明かさず、提案書の内容のみで審査を行った。

全国から 238 者に上る参加表明がなされ、その内 135 者から提案書の提出があった。第一次審査においては、まず、各審査委員がそれぞれ 135 提案の中から 10 提案程度を選び、それらの提案について議論を重ね、第二次審査に進む 6 者を選定した。

第二次審査では、公開によるプレゼンテーションとヒアリングを行い、その後、引き続き行われた審査委員会において、最優秀者 1 者、優秀者 1 者を特定した。

最優秀者に特定された受付番号 145：坂茂建築設計の提案は、「富士の水の循環と反映」をテーマとしたものであり、コンセプトが非常に明快であること、高度な技術に裏打ちされた、世界に向かってインパクトのあるメッセージを伝えることができる提案である点を高く評価した。

優秀者に特定された受付番号 48：マウントフジアーキテクトスタジオ一級建築士事務所の提案は、カテナリー曲線（懸垂曲線）を用いた、屋根に大きな特徴を持った提案であり、大胆な挑戦であり、実現すれば非常に新しい建築になるという点を高く評価した。

2次審査に残った6者はいずれもよく練られた提案で、富士山世界遺産センター（仮称）への思いが強く感じられた。最優秀者には、静岡県や建設地である富士宮市と連携を図り、「世界遺産 富士山」に相応しい建築の設計を進めていただきたい。

最後に、本プロポーザルに参加いただいた皆様には、提案書の作成等に多大な労力を注いでいただいたことに、心より感謝申し上げます。